

## 市町村合併に関する各種団体との意見交換会の開催結果について

### 1 出席状況

期 日	時 間	会 場	出席団体数
8月 6日(水)	14:00-16:00	市役所東別館9階 特別中会議室	22
8月 7日(木)	14:00-16:00		22
8月19日(火)	10:00-12:00		20
合 計			64

### 2 質疑・応答等の状況

(1) 企画部会関係	-----	1 頁
(2) 総務部会関係	-----	8 頁
(3) 市民部会関係	-----	10 頁
(4) 環境部会関係	-----	10 頁
(5) 健康福祉部会関係	-----	11 頁
(6) 経済部会関係	-----	15 頁
(7) 建設部会関係	-----	17 頁
(8) 消防部会関係	-----	18 頁
(9) 教育部会関係	-----	19 頁
(10) 交通部会関係	-----	21 頁
(11) 水道部会関係	-----	21 頁
(12) 病院部会関係	-----	22 頁
(13) 議会事務局部会関係	-----	22 頁

## (1) 企画部会関係

### 意見交換会の中で出された意見の要旨

- (1) 合併ということで1つの市になるわけだから、合併後の地域間の交流をいかに活発にするか考えていかなければならない。それぞれの町が持っている魅力を紹介しながら交流対話の機会を増やすことが、旧町域の垣根を取り除くということにつながるのではないか。したがって、合併する前からそれぞれの町が持っている魅力を広報する機会を増やしていただきたい。
- (2) 鹿児島市と5町とは、開きが相当ある。非常に鹿児島市が気を使いながらいろんなことをやっており非常にいいことだと考えている。大きなところが小さなところを吸収するという気持ちであれば非常に難しい問題も発生するが、鹿児島市の視線を合わせていくという姿勢は非常にいい。素晴らしい160万都市の鹿児島市をつくっていくことには賛成である。
- (3) なぜ市町村合併を今の時期にするのか。国も県も市も財政的に逼迫している。右肩上がりではなく悪くなっていく。いわゆる財政の効率化ということが、市町村合併の最大の目的だということをまず考えていただきたい。各種団体がエゴを言えば、いくらでも金がかかるのである。
- (4) 合併に関しては、われわれは時代が変わったという認識で話しをしないと、果てしない各論で終わってしまう。各論を話していると、何十年と答えは出ない。そこで総論を申し上げると、明治の時代は世界の鹿児島だったが、今は鹿児島県の中の鹿児島市であるという感じで見られている。今と昔の違いは、人である。だから、目先の利害関係とか経済効果面ばかりを追及していくと答えは永遠に出ない。
- (5) 県の10ヵ年の基本計画とも整合性を取りながら、いろんな具体案をつぶしてこられたと思うが、県都であるから県との関係を密接に、遺漏のないよう進めていただきたい。
- (6) もともと広域合併というのは国の事情、日本の事情で財政的な行き詰まりの打開策の目玉である。地域の人の希望とかを越えている。よく言われるが、合併ありきで走っているわけだから。鹿児島地区の場合には地勢的に見ても、現実の生活を見ても、一体性があり、一緒に住みよいまちづくりを進めることには賛成である。皆さんの知恵を出していただき、よい鹿児島市にしていいただきたい。
- (7) 鹿児島地区の場合は編入合併であり、編入される側の住民の意見が尊重されるべき。ただし、住民エゴは、できるだけ排除すべき。メリット・デメリットの両面があり、個々には利害が生じると思うが、大同団結できればいいと思う。
- (8) 膨大な項目について協議作業が必要であり、1年半で進めていくのはスケジュールがタイトだと思うが、やっつけ仕事で作業して後で問題が生じることのないようにしてほしい。
- (9) 毎日、合併のことが新聞記事に載らない日はないが、県都の合併がここまで準備が調っており、先々の日程まで詰められていることに対して、事務局の努力を評価する。各論については5町と真剣な協議がなされていると思うが、基本は、合併してよかったと住民が喜ぶような合併にすることが、一番大事。議員や職員だけが喜ぶような合併ではだめ。
- (10) 市内ではドーナツ化現象が進み、子供は市外へ転出して出ていく状態にある。合併すれば、吉田・松元・郡山などの開発が進んで、旧市街地からの転出がますます進むのではないか。その後の措置をどうするのか、将来に向けての計画はあるのか、心配している。
- (11) 私見では、今回の合併はプラス面が多いと思うが、マイナス面のPRもして、覚悟をしてもらうという部分も必要なのではないかと感じた。
- (12) 合併した後の各種サービスや税負担等は、市の水準に合わせるということだが、市域が広がり、高齢化が進んでいくことも考えると、交付税の経過措置の期限が切れた後、先々見直しや合理化が必要になってくると思うので、なるべく前広に情報を出して、協議できるようにしてほしい。
- (13) 合併については時代の要請であると思う。一番の本質的な問題は財政的な問題があると思う。合併については、細かな点についてはいろいろと問題が出てくるだろうと思うが、時代の要請だから、それを乗り越えてスムーズな合併ができるようお願いしたい。
- (14) 私の中学校でも意見交換会が開催されたが11名の参加と少なかった。市が広報に努めているは分かっている。編入合併なので、5町の住民の方々にも喜ばれる合併となるよう頑張っていきたい。

- (15) 鹿児島地区の合併は来年11月を目標としており、厳しいスケジュールの中である程度審議も急いでいかざるを得ないのが実情かと思う。協議会で提案し、およそ1ヶ月の間持ち帰り、そしてまた次の協議会で決定していくという流れになっているが、それだけにその都度細かい情報公開をしていくということが必要だと思う。しかも工夫された情報公開が必要である。事務局もいろいろな形で広報している。なによりも一番多くの方にわかりやすいのは合併協議会だよりである。具体的な表を出して説明しており、それぞれ自分のところはどうかに関心を持ってみるなどができるなどわかりやすく書いてある。要するにどうなるのかということが出ている。編入なので鹿児島市の制度に統合という表現も多いし、鹿児島市民にとってはこれはあまり大きな変化はないんだなというのが関心の低い原因になっていると思う。協議会だよりは1市5町を対象にしているので、55万の鹿児島市民がもっと合併について考えるためには、鹿児島市はどう変わるのかという部分、市民のひろばをはじめとして鹿児島市民だけの情報に絞って伝えていくことも大事であると思う。他とは差別化し、良くなる部分悪くなる部分を大きく扱っていくことが市民も納得するし、1市も含めた関心という部分で今徹底的に議論をすることで合併後に論議を生むことにならないような気がする。情報公開の中にも工夫を凝らした形での情報公開を期待したい。
- (16) 体験型の交流により都市部の人は農山村の体験を、また農山村の人には都市型の生活体験するような交流ができるよう考えてほしい。
- (17) 説明を受けた範囲では、特に言うことはない。ただ、先ほど受けた説明で、今回は市町村建設計画の素案だが、今後11月までに詰めていき、これに具体策や財政的な裏づけまでついてくるということであつた。そういう意味合いでは、今回は合併にあたっての格差是正をどうするかということが中心だったが、新しい町の将来像について、もう少し検討させていただく場があればいいと思う。
- (18) 1市5町の合併、結果として9地域に分かれるということを考えておられるが、素晴らしいと思う。今までは、隣の垣根はよく見えるから、どうしても他の真似事をするために同じものを各市町村ごとにいっぱいつくってきた。自然はたくさん破壊された。これが1つの市になると、多様性の中から、グローバルな目でいろんなことを見られるようになり、より強力な指導者が生まれてくる。そうなると、結果的により良い鹿児島市が出来上がる。そのためには、多少の犠牲は目をつぶらなければならないことが出てくる。どうしても合併効果の中に組み込まれていないものが、環境問題などだと思うが、例えばこの合併の中でどういう自然が鹿児島市に残っているか。ここだけは、市になれば守っていく場所もあるはずだということがクローズアップされ、非常にいいことだと思う。それと同時に9地域に分かれると、伝統文化が守っていける。9の地域残っている文化を一つにまとめてしまうとそれぞれの文化は消えてしまうが、9地域に分けて残すという発想は素晴らしい。そうすると各市民が、いわば連邦政治という大げさかもしれないが、いずれは九州県ぐらいはなると思うが、そういう道への第1歩になるのではないか。そうすると市民のためのというより、県民のための、日本国民のための鹿児島県ができてくる。今までの発想は、1億人に1億円の寄付があつたとしたら、それを1円ずつ配るような発想であつたが、1億円を使って何かやるというような発想で市の合併が動いていく気がするので、どんどん推進していただきたい。早く合併ができたらいいと思う。
- (19) まちづくりの基本方針とあり、5点挙げられているが、非常にいい展開であると思う。しかし、前の4点のコンセプトと5点目の産業は、少し意味合いが違うのではないか。要は、豊かに、安全に、心地よく過ごせるまちづくり、一方でそれを達成する豊かな経済環境をどうつくるかということは、もう一つ別に柱を立てて、まちづくりの基本計画をつくっていただけないか。その方が、活性化ということではきめ細かい政策ができるのではないか。
- (20) 鹿児島市が合併すると人口が5万人増えるというが、それは違うのではないか。私の業界でも各支店、本社を鹿児島市に直すところが出てくる。したがって、人も移ってくる。合併したら相当人口は増えると思う。その仕組みを研究していただいて、その中でどうしていくかということではないか。私は、60万人を相当超えると思う。
- (21) 産業振興や福祉サービスは大事だが、教育も大事。なかなか結果が見えにくい分野だが、ハード面・ソフト面の両面から予算確保に努めてほしい。特に、都市部と農村地域と一緒に学べるような、コンピューターネットワークで交流を図るとか、いろいろな施策が考えられると思う。

- (22) 市町村合併による効果が1から5までであるが、編入合併であるので、5番目の項目が一番であり、1から4の項目は合併があろうとなかろうとすべき問題であると思う。私どもの関心としては、合併を機会に何か夢のあるようなことが実現できないだろうかと考えており、合併協議会の議論としてははずれるが、例えば、技術的には可能であると同っている桜島架橋について、これは鹿児島市だけのメリットだけではなく、大隈半島との交流がさらに促進されるということもあるので、合併を機に桜島架橋の機運を盛り上げるためのプロジェクトみたいな形での議論があればよいのではないかなと思う。
- (23) 合併後の人口の説明があったが、新幹線の開業もありもう少し増えるのではないかなと思うので、それをにらんだ都市づくりをしてほしい。県政が停滞しているので、鹿児島市は県の人口の相当な割合を占めており、是非いい意味で県政を引っ張る、リードしていく、それぐらいの気概をもってやってほしいと思う。こういう不況の時代に公務員の給与、特に鹿児島においては、際立ってよく見えるので、しっかり仕事をしてもらいたい。5町には緑が多く残っている地域がたくさんあるのでどう活用していくのか、同じ箱物を造るのではなく、既存の施設をどう活用していくかなど、特色を持った地域づくりを全体的に考えてほしいと思う。
- (24) 女性団体としては、例えば桜島町にしても地域婦人会イコール女性団体なので、全部そろっており、団体としては今から作らなければならないとか、そういう心配はなく、地域婦人会に関しては吉田町をなんとかしなければならぬなと思っている。また、合併により補助金はどうなるかは一番気になることではある。どうせ合併するならば土地は倍になるが人口は5万人しか増えない。政令市となるようなまちづくりがこれから一番大事なことだと思う。やはり居住者を増やすということが一番まちづくりの原点ではないかなと思う。幸いにして土地は倍になる。やはりまちづくりは人が集まるまちを作ることが一番大事ではないか。できれば5年間の間に政令市になればいいなと願っている。
- (25) 市町村合併は、新聞社の取材にも非常に大きな影響を与える。取材というのは、警察署を中心にして、支社局を整備して行っているが、警察関係がどうなるかということも含めて、鹿児島市も指宿の近くまで鹿児島市になるということで、取材体制というものを根本から見直して、充実したものに指定かなければならぬと考えている。
- (26) 建設計画は10年間のものであるという話だったが、10年を過ぎると交付税等も激変緩和という措置を取りながらも本来の姿に戻っていく。全体の税収が減っていく、そういう過程を含めたシミュレーション、計画というものが必要ではないか。
- (27) この資料には、財政支援についての情報はかなり載っているが、これを受ける側の1市5町の財務状況についての情報が、別紙扱いとなっている。前の冊子では、同じ冊子になっていたと思う。こういったものは表裏一体をなすものであるから、同じ冊子の中に入れて、こういう財政支援を受けるのは、1市5町の財務状況、借金を抱えているところもあり、鹿児島市が引き受けなければならないところのあるわけなので、そこは一緒に見られるようにしていただきたい。
- (28) 財政の状況については、市町村合併は究極の行政改革といわれているが、今回の合併の動きはまさしくその辺から来ているわけである。先ほどいろんな説明があったが、意外と知られていないのが鹿児島市は、いろんな施策を持っているということ。高齢者福祉なども、非常に素晴らしい施策を持っている。そこに各町の方々が入ってくることによって、財政的な負担とかがどうなっていくのか。それによって、現在の鹿児島市の方々の税金がどうなっていくのか、関心がある。そういう中で、これからの財政計画をしっかり立て、その中で福祉に何%くらい充てるのかということもしっかりと市民にお知らせしながらやっていかないと、いたずらに行政サービスというと、それだけお金もいるじゃないかということになる。大きな行政を目指せば、それだけお金がかかる。小さな行政であれば、民間活力を使って税金が少なく済むというのは当たり前であり、どちらを嗜好されるのかということも、はっきりと示してほしい。
- (29) 鹿児島青年会議所の会員は現在260名ほど。県内は12ブロックに分かれており、鹿児島青年会議所の会員は鹿児島市を中心に川辺や喜入、桜島から参加している。合併について会員の中で言われているのは、この短期間でできるのか、詳細まで問題を詰められるのかということ。特に、松元・吉田・郡山・喜入の各町は陸続きだが、桜島は離れており、格差をなくすることができるのかという問題もあるし、これだけの合併をすれば、財政負担が大きくなるのではないかな、あまり時間がないスケジュールの中で、各種の問題をクリアできるのか、などの問題もあると思う。
- (30) 合併特例債は511億円が上限で、3割は借金として残るという説明があったが、使用は慎重にしてもらいたい。

- (31) 新潟市は政令市を目指し、周辺と合併協議を進めており、比較的合併の話が話題になっているが、鹿児島の場合は合併が話題として出てこない。これは一つには鹿児島市にとってどういうメリットがあるかということをも市民が分かっておらず、むしろ合併する5町の負担を現鹿児島市民が負担することになるのではないかと危惧を市民が抱いている面があるからではないかと思う。将来負担がどうなるかということについては、数字上示すのは難しいのかもしれないが、将来の鹿児島市の財政構造や財政指標を示すことによって、合併後も健全な財政が保てることをきちんと市民にPRするとともに、合併によるメリットをメディア等を使い、広く市民に周知することがこれから必要になってくると思う。
- (32) 今の時代の合併は国による地方の合理化である。国の交付金を減らしたい。地方にある無駄を徹底的に取り除きたい。例えば、農業委員とか議員とか合理化していくというのが一つあると思う。一方ではより充実した行政サービスが求められている。合併によってこれまで受けられていた行政サービスがなくなると、やはり住民にとっては合併というのは良くなかったのではないかなというイメージを抱くので、住民サービスが絶対低下しないというところの一つ線を引いていただきたい。その他で効率化できるものは、合併を機に効率化すべきだと思う。職員数についても効率化できるものはあると思う。そのため合併なので、効率化できるものは効率化していく必要があると思う。鹿児島市は55万もの人口がありこの地域での求心力はものすごい。鹿児島市民が5町を受け入れることによって負担が増えるのではないかと考える方が多いと思うが、実は5町の人たちが鹿児島に入り込むことによる経済効果はものすごいと思う。だからそういったものを考えると、5町を合併したからといってそれぞれの負担が増えるというよりも今までとほとんど変わらないのではないかと。
- (33) 毎年桜島でサッカー大会やウォーキングなど桜島町と一緒にやっているが、桜島町はこじんまりとした行政単位なので、小回りがきく。開会式には町長が来て、挨拶していただけるし、いろんなところで便宜を図っていただく。また、景品なども出していただいている。また、喜入町が市域になれば、指宿枕崎線のかなりの部分が鹿児島市域に入ることになる。駅舎の問題、線路の問題、これも行政単位が小さければ小回りが聞くとところがある。これらのことについて、大鹿児島市になったときにも同様に小回りがきくのか心配がある。役場は支所になるということだが、支所にどういう権限を持たせるかということ、今後の話し合いになると思うが、地域でも小回りがきき、地域に密着したものとなるよう考えていただきたい。
- (34) ごみ処理の関係で説明があったが、喜入や松元、始良についても施設がある。一部は、周辺都市と一緒につくっているものだと思うが、鹿児島市への編入に伴ってそこを脱会することによる周辺町村に与える影響にも配慮すべきである。
- (35) 私たちの協議会も各町にあるが、市町村の身体障害者の組織機構をどうするかについてはまだ話合っていないが、今後考えてみたいと思う。100年の計で鹿児島市が大きくなるように、また、すべての人が幸せに暮らせるような街にしていきたい。
- (36) 合併後の市の施策として、5町に手厚くするのは理解するが、人口割だと市が手薄になるのではないかと考える方もいる。その辺の検討をお願いしたい。私はレクリエーション協会の活動も行っており、公民館や福祉館で親子体操等の指導をしているが、市内ではなかなか場所がとれない。郡部はいつも空いている。人口割で考えると、市の方が公共施設の整備が遅れている。合併特例債は、1市5町が同じ生活条件になることを基本に使用してほしい。特に高齢者福祉や児童福祉に力を入れてほしい。
- (37) タクシーの営業区域は運輸局で指定され、その区域で運行している。吉田町、郡山町及び松元町は鹿児島交通圏に入っており営業を行っているが、これに桜島町、喜入町が入ると、タクシーの需要が減少している中で鹿児島市に集中することになる。一昨年の道交法改正により規制緩和がなされ新規加入もあり、供給過剰に拍車をかけるのではないかと危惧している。運輸局の見解等については、現在確認しているところであるが、旧交通圏のままでいくのか定かではないが、一つの課題として考えている。今まで吉田町、郡山町及び松元町のタクシーは、紳士協定的なことで現時点は鹿児島市には出てこないということで、市の協会に加入していない。合併により鹿児島市となるが、協会に加入しないということになれば、指導の面で問題が出てくることになり、さらに迷惑をかけることになるのではと憂慮している。友愛タクシー券交付事業は是非継続していただくようお願いしたい。
- (38) 県栄養士会としては、市の単位で組織を作っていなかったのが公共的団体の統合ということについては問題はない。生活者として合併は大変いいことだと思う。特に、乳幼児医療費助成事業やごみの無料化など鹿児島市のよい制度は鹿児島市のものに統合し、逆に心をつなぐ訪問給食事業等を2食にするなど、お互いのよいところだけを取り出して統合していくという基本的な方針に賛成である。

- (39) 現在民生委員は864名いるが、合併したら988名と大勢になる。児童福祉や高齢者福祉事業の中でメリットだけを受け入れて、デメリットを主張するというのではなく、お互い公平な形で調整をし、住民を納得させてほしいと思っている。地域での意見交換会に出席したが、少なく寂しい気がした。行政や専門家の方々にいろいろと協議を行って、住民の方々に広報すればいいのではないかと考えている。
- (40) 既存の公共施設がたくさんあると思うが、こういうものをどのように生かしていくのか。これらをあまりお金をかけずに一つひとつ十分に活用していただきたい。鹿児島市の10年後の人口は65歳以上は増え、あとは減少し、高齢化社会が訪れる。大きな財政負担になると思うが、このような施設も利用しながら、高齢化社会に向けて10年後、合併する5町をどう生かしていくかということも考えていただきたい。
- (41) 住民福祉は非常に大事であるが、一つ言えるのは、やはり住民に対してもちゃんと説明をし、甘やかさないということ。新たな事業を行うことで必要なくなる事業は廃止するなどメリハリつけて行ってほしい。鹿児島市は税金が高いと思うので、できるだけこれは上げないような形で住民サービスもしっかり選別してやってほしいと思う。
- (42) 商店街振興組合は、商工会議所が設置されているところだけが加入できる。喜入町、桜島町、吉田町も商工会が残るのであれば、振興組合法により、商店街振興組合に加入できないこととなる。団体の統合については、全振連と協議しながら、そういうところも加入できるよう、全国的に考えていただいて、統合し一緒にやっていく方法を模索していきたい。
- (43) それぞれの町には商工会があり、商工会の統合と市町村合併を同時に進行させるということは考えていない。商工会の統合は、商工会運営の中で広域合併をすることで効率化とか、発展等を目的としたもので、独自に考えている。市町村合併があるから自動的に合併するということまで考えてはいない。5町の立場からも、合併後もそれぞれの町の商工会は存続させたいという意見がある。
- (44) 谷山商工会は、鹿児島商工会議所との合併研究会というものを設けたことが、過去にはある。しかし、商工会議所と商工会の組織の趣旨・目的というものが、定款では似たようなものになっているが、実質施行している中では、商工会の方が地域に密着した地域振興などを重点的に行っており、なかなかなじまない組織同士ではないか。したがって、合併については、時機尚早という意見が出ている。
- (45) 谷山市時代の協会が、鹿児島市との合併後も残っているが、現在は会員80人ほどの小さな団体である。慈眼寺公園でソーメン流し事業をしているが、そんなに大きな事業でもないのだから、合併に賛成とか反対とか言える団体でもない。鹿児島市の観光スポットの1つとして活動を続けており、このソーメン流しを市の観光協会で引き取ってくれるのであれば統合について考えてもいいと思うが、最終的には会員に諮って決めなければならない。
- (46) 来年3月に新幹線がやってくるが、それに合わせて共通商品券を出したいと思っているが、そのときには、まだ合併になっていないので5町も一緒に取り組むのは間に合わない。その辺の行き違いが無いように、合併の時期については認識を持ちながら取り組みたいと考えている。商工会の中には、商店と工業などいろいろあり、ほとんど通り会に入っていたが、商工会があるところは、通り会への加入も商工会に相談もしながら進めないといけませんが、何かいい方法はないのか検討していきたい。
- (47) 鹿児島市は眼前に海や桜島を持ちながら、観光地づくりとしてはまだまだ遅れていると思う。合併により桜島町、喜入町が入るので、錦江湾一体、桜島を取り込んだ新たな観光戦略を考えなければいけないと思う。そのために、クルーズやヨットハーバーなどウォーターフロントを活用したまちづくりを是非行っていただきたい。松元町や郡山町は非常に緑が多いので、新たな開発をせずに、そういうものを生かした衛星都市というか、鹿児島市の方々が回りに住むようなまちづくり、あるいは週末には鹿児島市の人たちが松元町や郡山町に緑を求めて、あるいはスポーツ、レジャー、農業でもよいが、そういう衛星都市構想みたいなまちづくりを是非進めていただきたい。
- (48) 私たちの団体は、土木事務所を単位に支部がある。鹿児島市の支部が脇田川から北の鹿児島市と吉田町、桜島町までの範囲だが、5町との合併となると、現在、郡山町、松元町、喜入町は、それぞれ日置支部と指宿支部に入っている。公共事業が減っていく中で、各支部の統廃合というのを考えていかなければならない。果たしてうまくいくのか心配ではあるが、合併協議の進行に合わせて協議をしていかなければならないと考えている。
- (49) 子供がふるさとを自慢できるのは、地域の独自性や歴史性があるからで、地区としての特色を打ち出せるような施策を展開してもらいたい。地名は歴史や伝統のあるものであり、何らかの形で生かしてほしい。

- (50) 公共施設は、できるだけ統廃合していただきたい。そうすれば、規模も大きくなり、効率的な運営もできる。できるだけ、学校をはじめ諸施設は、統廃合していただきたい。
- (51) 市営バスは赤字で市電は黒字だが、そういうバランスも考慮しながら、5町への配慮も踏まえて、市電の延伸を将来的に検討すべき。
- (52) 合併により交通量の増加が懸念される。いろいろ考えると、せっかく鹿児島市に少な目の緑が近隣の町村に豊かにあり、それが鹿児島市という一つのものになるのだから、それをうまく生かした全体的なものをこの際作ってほしい。一つは、パークアンドライド方式で、5町との境界部分にはまだ土地があり、今のうちに大きな駐車場を作り、そこまで車で来て、あとはピストン輸送で市内に入ってくる。地球温暖化を防ぐ意味でも、例えば、松元町は電車があるが、郡山町とか吉田町などは鉄道がないので、どこか一ヶ所だけでも実施してはと思う。また、熊本市でも市電の見直しを行っているが、市電を延伸することによって、10年後少しは暮らしやすい、いい環境になるのではないかと今考えておかなければいけないと思うので、合併を機に考えてほしいと思う。

#### 意見交換会の質疑応答等の要旨

- (Q1) 鹿児島市の合併は、いくつかある合併とは同じではない。県都としてのプライド、あるいはモデル的な合併を目指すべきであると思う。こういう視点から申し上げるが、合併によりサービスや税金が変わるということであれば、合併に至るまでの間に住民が参加する、住民の意思を反映することが必要であり、現にやられてきたと思うが、これから最終段階になるわけで、今、住民意見交換会もされているが、それも含めて今後住民の意思を尊重する、あるいは反映する方策についてどういうことを考えているのか。また、桜島町では、住民投票とか出ているが、本市ではどう考えているか。
- (A1) 結論から申し上げますと、住民投票の実施は考えていない。これは、今市内の30ヶ所で市民の皆さんに本日と同じ内容で説明し、意見を伺うという形で意見交換会をやっている。これは、途中段階であり、11月ごろに最終的に、市町村建設計画案、すべての合併協議の結果が出揃った段階で再度住民の皆さんに対しては説明し、それに対する意見を伺ってまいりたい。鹿児島地区の合併協議会の協議の進め方の特徴であるが、協議会にすべての議案を提案し、その場で決めるのではなく、いったん持ち帰り、1ヵ月後の次の協議会で協議をし、できたらそこで決めていただく。それでも決まらなければ、再度持ち帰り協議していただくという形を取っている。その間、1市5町それぞれでは、議会等での十分論議をして住民の代表である議員さんとも十分話をしながら、決めていくというスタンスを取っている。また鹿児島地区では、1市5町の全世帯に合併協議の状況をいろんな媒体でお知らせするようにしている。そういったところから、いろんな過程で、いろんなやり方で住民のコンセンサスを形成していきたいということを考えており、冒頭申し上げたような考え方でいるところである。
- (Q2) 昭和42年に合併した時には対等合併ということで、谷山支部は残していこうということで現在までできているが、今回の合併によって、団体がどういうふうになっていくかわからない。市の一体性を確立するために統合整備に努めるものとするところがあるが、谷山支部でもいろいろな意見がある。どのように考えているのか。
- (A2) 公共的団体の統合は、合併特例法の中では、新市の一体性の醸成ということから考えると、公共的団体も統合をする必要があるとなっているが、一方では、統合するかしないかということを決めるのはあくまでその団体であるとなっている。鹿児島市のスタンスとしては、統合するかしないのかはあくまで公共的団体の方で判断をしていただきたいと考えているが、ただ市としては、一体性の醸成に資するためには統合ということが望ましいわけであるので、斡旋というか指導は行っていきたいと考えている。それを行っていく時期としては、合併議案の議決がなされた後に団体のみなさんに話をしていくことになると思う。
- (Q3) 桜島町や喜入町などでは、一部合併反対というようなことを聞いているが、私たち老人会などは統合の話をいつ進めるべきなのか。県の段階でも、各郡の連合会があり、合併になれば郡が変わる。できるだけ早い時期に、合併が決まった段階で私たちも合併について動いていきたいと思うので、行政としてできるだけそうしたことをはっきりしてほしいと思う。

- (A3) 合併協議会の協議を概ね11月までに終わり、来年早々に1市5町の合併協定書の調印を行いたいと考えている。その後、1市5町それぞれで廃置分合議案というものを提出し、それぞれで議決がなされると、合併に向けての事務作業をすることになるので、公共的団体の統合の話もこの時期からそれぞれ担当部局が話をしていくことになると思う。
- (Q4) 広報活動を行っているが、市民は合併のことを根本的に本当に理解しているか。広報活動の成果は市民の反応によって知ることができると思うが、本当に根底的な詳細な質問が市民からあるか。
- (A4) 7月28日から市内30カ所で意見交換会を開催しているが、参加者が今ひとつの状況であり、今後原因分析が必要と考えている。意見交換会の中で質問が多いのは、財政見通しは大丈夫かという問題。また、合併協議は大変な事務量だと思いが頑張してほしいという激励もいただいている。今回は中間報告としての意見交換会だったので、1市5町のまちづくりの青写真ができた段階で、もう1回意見交換会を開催したい。それまでの間も、いろいろな媒体を通じて情報提供していきたい。
- (Q5) 吉田町、松元町及び郡山町では町の委託を受けてバスを運行しているが、これについてどこまで検討されているのか。関係の事業者がいつの時点で協議に加わるのか。また、敬老特別乗車証交付事業についてはどのようになっているのか。
- (A5) 交通関係事業の協議は、企画専門部会と交通専門部会の2つで協議をしている。関係者との協議は、方針案を合併協議会に提案をし決定をされた後に関係の機関と協議することになると思う。敬老パスについては、現在健康福祉局で検討しているので、検討案が固まったなら合併協議会に議案として提案していくことになるが、その提案時期ははっきりしていないところである。
- (Q6) 5町の団体等と話し合いをしたいと思うが、説明では平成16年早々に調印すると聞いた。5町が鹿児島市と本当に合併するかどうかの確認ができないうちに、あまり早く取り組んでも合併しないところがあると困るので、その辺についてご教示いただきたい。
- (A6) 現在、合併協議や市町村建設計画の協議を進めているが、年内に合併協議会での結論を得て、明けて平成16年早々に合併協定書の調印を行いたいと思っている。したがって、合併の準備作業は、合併の調印が終わってから、もう少しいえば、合併議案の議決がなされてから行っていきたいと考えている。その期間というのが、合併議案の議決が2月の辺りから10月いっぱいまでを合併準備作業ということで進めていきたい。市の関係はこういうふうに進めていくが、公共的団体そのものは16年の11月に必ずしも統合しなければならぬというものではなく、また私どもが決定するわけでもないで、それまでの間にできないものもあると思う。ただ、行政との関わりもあり、関係課と連携して抜かりのないように対応してまいりたい。

#### 意見記入用紙の主な記載事項

- (1) 合併は何がメリットで何がデメリットなのか、デメリットをどう克服し住民サービスの低下を防ぐのが市民にはわかりにくい。地方税やごみ処理など個別の項目では見通しが示されているが、全体のイメージがつかみにくい。市民にわかりやすく説明し、伝える工夫がほしい。
- (2) 合併による新たな財政支出を少なくするため、5町の既存施設をどう活用するのか早めに展望を示すべきである。
- (3) 合併後のメリットを作る。  
 鉄道の複線化(指宿線、日豊線)  
 幹線道路の改良  
 桜島架橋  
 既存の公共施設の有効活用を図る。
- (4) 交通体系の将来を見越した思い切った施策  
 循環型社会・環境配慮型交通網の計画、パークアンドライド、電車の延伸、環境定期
- (5) 少子高齢化の人口推計の中で、高齢者対策は重要な案件になってくると思うので、緑と自然の中にもデル住居地をつくり、過疎化を防ぐようなまちづくりが必要。

- (6) 地域の特性や歴史性を大切にす方向で、地名は残してほしい。周辺地域の衰退にならないようにしたい。
- (7) 1市5町の合併によって、都市機能中心の鹿児島市に、農村や桜島、里山など豊かな自然が入り、人々の「ふるさと意識」が変わると思われる。また、生活圏の拡大、人々の体験・活動の広がりが予想される。「行財政改革」のみに注目されているが、行政側から「市民の意識改革」を働きかけるとともに、「新しいまちへのビジョン」を「子どもたちの夢」を育むものにしたいと願う。
- (8) 未来を築くのは青少年であり、青少年を育てる観点から次のようなシステムの見直しを図る必要がある。
  - ・一極集中の施政にならないよう「拡散」「交流」を考えた教育施設・文化施設づくり

## (2) 総務部会関係

### 意見交換会の中で出された意見の要旨

- (1) 合併になると職員の流動が起きてくると思うが、とりわけ地域のサービスを低下させないという観点から十分住民とのつながりを含めて、その人の能力が生かされるような方向で考えていくべきである。
- (2) 平成の合併については身近に感じている。電力業界でも、再来年までに電力自由化が進められる予定であり、これに合わせて現在の事業所を何カ所減らすのか検討しており、人件費の抑制が至上命題となっている。市町村合併も大変だと思うが、市町村合併と順序が違うのは、電力事業者の場合はインフラの調整を先行させていること。5町については、町役場を支所にとということなので、当初はあまり人は減らないのではないかと感じた。
- (3) 銀行協会の地方組織の関係では手形交換所があるが、今回の1市5町は既に鹿児島手形交換所の対象区域に入っているため、合併による支障はない。指定金融機関の関係では、吉田町・喜入町は指定機関がなく、鹿児島市・松元町・郡山町は鹿児島銀行、桜島町はJAとなっている。合併にあたっては、合併期日前後の公金の収納がスムーズにいくように、給与振込や各種帳票の違いなども含めて、指定金融機関と事前に協議してほしい。
- (4) 議員の定数については経過措置もあり時間はかかると思うが、いずれにしても議員総数がかなり削減され、合併のスケールメリットが生かされると思う。一番大きいのは職員数である。当初5町の職員は市の職員となるが、10年後、20年後に全体の職員数がどうなっていくのかシミュレーションを行い、合併前にはある程度出していただき、広報してほしい。やはり事務経費は固定費として非常に大きな問題なのでよろしくお願したい。
- (5) 建設計画は10年間のものであるという話だったが、10年を過ぎると交付税等も激変緩和という措置を取りながらも本来の姿に戻っていく。全体の税収が減っていく、そういう過程を含めたシミュレーション、計画というものが必須ではないか。
- (6) この資料には、財政支援についての情報はかなり載っているが、これを受ける側の1市5町の財務状況についての情報が、別紙扱いとなっている。前の冊子では、同じ冊子になっていたと思う。こういったものは表裏一体をなすものであるから、同じ冊子の中に入れて、こういう財政支援を受けるのは、1市5町の財務状況、借金を抱えているところもあり、鹿児島市が引き受けなければならないところのあるわけなので、そこは一緒に見られるようにしていただきたい。
- (7) 財政の状況については、市町村合併は究極の行政改革といわれているが、今回の合併の動きはまさしくその辺から来ているわけである。先ほどいろんな説明があったが、意外と知られていないのが鹿児島市は、いろんな施策を持っているということ。高齢者福祉なども、非常に素晴らしい施策を持っている。そこに各町の方々が入ってくることによって、財政的な負担とかがどうなっていくのか。それによって、現在の鹿児島市の方々の税金がどうなっていくのか、関心がある。そういう中で、これからの財政計画をしっかりと立て、その中で福祉に何%くらい充てるのかということもしっかりと市民にお知らせしながらやっていかないと、いたずらに行政サービスというと、それだけお金もいるじゃないかということになる。大きな行政を目指せば、それだけお金がかかる。小さな行政であれば、民間活力を使って税金が少なくて済むというのは当たり前であり、どちらを嗜好されるのかということも、はっきりと示してほしい。

- (8) 鹿児島青年会議所の会員は現在260名ほど。県内は12ブロックに分かれており、鹿児島青年会議所の会員は鹿児島市を中心に川辺や喜入、桜島から参加している。合併について会員の中で言われているのは、この短期間でできるのか、詳細まで問題を詰められるのかということ。特に、松元・吉田・郡山・喜入の各町は陸続きだが、桜島は離れており、格差をなくすることができるのかという問題もあるし、これだけの合併をすれば、財政負担が大きくなるのではないかと、あまり時間がないスケジュールの中で、各種の問題をクリアできるのか、などの問題もあると思う。
- (9) 合併特例債は511億円が上限で、3割は借金として残るという説明があったが、使用は慎重にしてもらいたい。
- (10) 新潟市は政令市を目指し、周辺と合併協議を進めており、比較的合併の話が話題になっているが、鹿児島の場合は合併が話題として出てこない。これは一つには鹿児島市にとってどういうメリットがあるかということをも市民が分かっておらず、むしろ合併する5町の負担を現鹿児島市民が負担することになるのではないかと危惧を市民が抱いている面があるからではないかと思う。将来負担がどうなるかということについては、数字上示すのは難しいのかもしれないが、将来の鹿児島市の財政構造や財政指標を示すことによって、合併後も健全な財政が保てることをきちんと市民にPRするとともに、合併によるメリットをメディア等を使い、広く市民に周知することがこれから必要になってくると思う。
- (11) 今の時代の合併は国による地方の合理化である。国の交付金を減らしたい。地方にある無駄を徹底的に取り除きたい。例えば、農業委員とか議員とか合理化していくというのが一つあると思う。一方ではより充実した行政サービスが求められている。合併によってこれまで受けられていた行政サービスがなくなると、やはり住民にとっては合併というのは良くなかったのではないかなというイメージを抱くので、住民サービスが絶対低下しないというところに一つ線を引いていただきたい。その他で効率化できるものは、合併を機に効率化すべきだと思う。職員数についても効率化できるものはあると思う。そのための合併なので、効率化できるものは効率化していく必要があると思う。鹿児島市は55万もの人口がありこの地域での求心力はものすごい。鹿児島市民が5町を受け入れることによって負担が増えるのではないかと考える方が多いと思うが、実は5町の人たちが鹿児島に入り込むことによる経済効果はものすごいと思う。だからそういったものを考えると、5町を合併したからといってそれぞれの負担が増えるというよりも今までとほとんど変わらないのではないかと。
- (12) 毎年桜島でサッカー大会やウォーキングなど桜島町と一緒にやっているが、桜島町はこじんまりとした行政単位なので、小回りがきく。開会式には町長が来て、挨拶していただけるし、いろんなところで便宜を図っていただく。また、景品なども出していただいている。また、喜入町が市域になれば、指宿枕崎線のかなりの部分が鹿児島市域に入ることになる。駅舎の問題、線路の問題、これも行政単位が小さければ小回りが聞くとこがある。これらのことについて、大鹿児島市になったときにも同様に小回りがきくのか心配がある。役場は支所になるということだが、支所にどういう権限を持たせるかということ、今後の話し合いになると思うが、地域でも小回りがきき、地域に密着したものとなるよう考えていただきたい。

#### 意見交換会の質疑応答等の要旨

- (Q1) 5町の役場は支所になるが、この規模はどの程度か。また、工事等の入札や予算の枠組みがどのようになっているのか。
- (A1) 5町の役場は支所とすることが決定されているが、支所の権能、機能をどの程度にするかは現在検討している。事務事業がどのような形で整理されるのかということのを待たないでどのような権能を持たせるのかということが検討できないので、それらが終わったときに機能、権能が明確になる。
- (Q2) 広報活動を行っているが、市民は合併のことを根本的に本当に理解しているか。広報活動の成果は市民の反応によって知ることができると思うが、本当に根底的な詳細な質問が市民からあるか。
- (A2) 7月28日から市内30カ所で意見交換会を開催しているが、参加者が今ひとつの状況であり、今後原因分析が必要と考えている。意見交換会の中で質問が多いのは、財政見通しは大丈夫かという問題。また、合併協議は大変な事務量だと思いが頭張ってほしいという激励もいただいている。今回は中間報告としての意見交換会だったので、1市5町のまちづくりの青写真ができた段階で、もう1回意見交換会を開催したい。それまでの間も、いろいろな媒体を通じて情報提供していきたい。

#### 意見記入用紙の主な記載事項

- (1) 市民税・保険税の徴収率向上について、資料では市税・保険税の滞納額が見えないが、現在の鹿児島市の市民税等の滞納額は、合併町の各々の財政規模に相当する額ではないかと思う。今後の行政サービスの向上、新規事業など新たなまちづくりを目指すためには、地方交付税も必要ではあるが、自主財源の確保が欠かせないことから、税外収入（住宅使用料等）を含め、市民の義務を強力に求めることが大切と思う。

### (3) 市民部会関係

#### 意見交換会の中で出された意見の要旨

- (1) 1市5町をみると、町内会の加入率が大きく違う。桜島町は100%の加入率、5町の中で一番低いところで87～88%ということだが、鹿児島市は64%と非常に低い。これを合併と同時に何とか70～80%まで上げていただきたい。お互いに参加していただくよう努力していかなければならない。こういう点からも、鹿児島市民として恥ずかしくない合併にしていきたい。
- (2) 私の団体は全国組織にもつながる任意団体である。コミュニティ関係事業との関わりがあり、また町内会に基盤があるということで、1市5町では、それぞれ団体の中身が違うのではないかと。現在、1市5町での合併協議が進む中で、鹿児島市においては2つの団体が存在しており、昨年度から団体の合併について話し合いをしているところである。やはり、同じ市に2つの団体があるのはおかしいということから、過去は過去として、将来に向けては合併していかないといけないのではないかと。市町村の合併後も話し合いをすると思うが、市で1つの団体となると思っている。前向きな姿勢で話し合っていきたい。

#### 意見交換会の質疑応答等の要旨

該当なし

#### 意見記入用紙の主な記載事項

- (1) 未来を築くのは青少年であり、青少年を育てる観点から次のようなシステムの見直しを図る必要がある。
  - ・コミュニティづくりの見直し

### (4) 環境部会関係

#### 意見交換会の中で出された意見の要旨

- (1) 5町に関しては、現在県の許可を受けて行っているのですが、合併をすると鹿児島市の許可となるが、取り合いというか、県の許可の中で執行猶予をもらえるものか。そのような対応をしないと業界としての準備やあるいは排出事業者に対する説明などができないのではないかとということが考えられる。そうすれば産業廃棄物の不適正処理のないような指導ができるかと思う。
- (2) ごみ処理の関係で説明があったが、喜入や松元、始良についても施設がある。一部は、周辺都市と一緒につくっているものだと思うが、鹿児島市への編入に伴ってそこを脱会することによる周辺町村に与える影響にも配慮すべきである。

- (3) 私の団体は全国組織にもつながる任意団体である。コミュニティ関係事業との関わりがあり、また町内会に基盤があるということで、1市5町では、それぞれ団体の中身が違うのではないかと。現在、1市5町での合併協議が進む中で、鹿児島市においては2つの団体が存在しており、昨年度から団体の合併について話し合いをしているところである。やはり、同じ市に2つの団体があるのはおかしいということから、過去は過去として、将来に向けては合併していかないとはいけないのではないかと。市町村の合併後も話し合いをしようと思うが、市で1つの団体となると思っている。前向きな姿勢で話し合っていきたい。
- (4) 安定型処分場が合併する5町に点在しているので、我々業界にとっても市街化調整区域の線引きが一番気になることである。合併後、市街化調整区域になった場合には建築基準法の制約を受けると思うが、そういう制約を受けることになると5町の住民にとって多大な負担が生じてくるのではないだろうか。業に対して何か出てくるのではないかと話が出ている。そういうことがないような措置をとっていただいたり、あるいは猶予期間を設けていただければと思う。

#### 意見交換会の質疑応答等の要旨

該当なし

#### 意見記入用紙の主な記載事項

- (1) 交通体系の将来を見越した思い切った施策  
循環型社会・環境配慮型交通網の計画、パークアンドライド、電車の延伸、環境定期

### (5) 健康福祉部会関係

#### 意見交換会の中で出された意見の要旨

- (1) 敬老パスや入浴券の問題が出たが、無料というのはよくない。いくらかでも負担させていただいて、財政の効率化という線に沿った市町村合併を進めていただきたい。
- (2) 以前から合併することにより福祉の後退がなくてはならないということをお願いしていたが、本日説明を聞いて概ね後退がない。それなりに評価できるのではないかと思っている。
- (3) 我が団体は350名の会員がいるが、団体としての合併の対象になるのが、揖宿郡の喜入町、そして日置郡の松元町と郡山町で13名の方々であるが、既に話し合いを始めている。難しい問題もあるが、調べたところ大分市が昭和の合併のときに、そのままにしていたら行政との関係がやりにくかったと聞いているが、その方々がスムーズに鹿児島市の会員になってくださることにに関しては、少しも心配していないところである。
- (4) 高齢者の敬老パスや入浴券については、民間、市営バスに8億円の補助を出していると聞く。ただで使うのは良くない。払える人には払っていただかなければならない。払えない人は救わなければならない。温泉センターに来られている人の7割は、健康で、お金も持っている人たちである。2割くらいが術後のリハビリに見えているのである。払える余力のある人にとっては、払えない金額ではない。中途半端な見直しではなく、制度をやめる方がよい。それで、少しでも浮けば、それを使わなければならないところへ回すことも必要である。
- (5) 合併に伴って一番苦慮すると思うのが食品衛生協会の取扱い。会員が1万とかの大きな組織である。食品衛生への関心が高まっており、問題はたくさんある。吉田町は加治木地区であり、指宿地区や日置地区も関係してくる。それぞれで指導や会議を行っており、会員から徴収する会費が異なっており、財産も持っている。例えば合併して財産はどうなるか。それぞれ持ち寄りとしても簡単にはいかない。宮之城と川内の食品衛生協会は保健所統合に伴って一緒になったが、役員構成もかなり変わった。単に2つの組織を一緒にするというだけでは済まず、各市町村からの理事の構成もよく考えないとはいけない。そして、支部割りの問題をどう考えるかということもあるし、それぞれの団体が行っている行事もかなりあるので、その取扱いも問題。そういう点をよく押さえておかないと、後で問題になる。保健所の担当課長と細かいところまで詰めていきたいと考えているが、行政の方でも話をよく聞いてもらいた

- い。そして、関係の支部ともよく協議をして、うまく一緒になっていければいいのではないかと。基本的には行政が指導してやるべきだと思う。先に行政がやってもらわないと、うまくいかない。
- (6) 敬老パスについては、陳情とか行われているようだが、個人的には何らかの負担が必要ではないかと考えている。市域が広くなれば、これまで以上に平等性に配慮しなければならない。何でもタダがいいという発想ではいかがなものか。ただし、一般の乗車料金が180円ぐらいだから、1/3ぐらいは負担してもらえらるだろうというような短絡的な発想には疑問を持つ。お年寄りの生活を考えると、病院も2~3カ所を廻りし、買物も百貨店から次の店へとなる。1回60円でも5回乗ったら300円になる。乗車ごとに負担を求めるという発想でなく、例えばバスの1ヵ月定期券の7,560円を半額にするとか1/3にするとか、そういう対応を考えるべきではないか。
- (7) 障害の種類には知的・身体・聴覚・視覚・精神などがあるが、手をつなぐ育成会は知的障害者の本人と家族の会で、県の組織につながっている。去る7月17日に県の育成会が音頭をとって1市5町の懇談会があった。その時は各町とも合併の案を持って来ていなかったため、県が音頭をとって鹿児島地区育成会合併協議会を結成することになった。10月4日に第1回の話し合いが行われるが、少し取り組みが遅かったかなと感じている。市の育成会は800名ほど会員がいるが、他の町は少ないので、ともすると何でも鹿児島市の方で引っ張っていくことになるが、各地区の意見を尊重して慎重に進めていきたい。
- (8) 私共は行政サービスに頼っている部分が大きく、例えば養護学校を卒業した子供は就労の機会がなかなかないので、小規模作業所をつくって働く喜びを体験したり、自立への契機としており、行政から補助金を得て運営している。育成会同士が合併しても補助金の額が下がることのないようにしてほしい。友愛パスについても恩恵を被っている。
- (9) 私共としても、できるだけ早く合併について話し合いを進めていきたい。
- (10) 食生活改善推進員連絡協議会は全国的な組織であり、全国の会に出席しても市町村合併の話題が出る。1市5町の組織のことについては、まだ1回も話し合ったことはなく、保健所からも詳しくは聞いていないが、活動内容は健康づくりが主であり、市の55プランや全国の活動にもつながっているので、今後1市5町の組織が足並みを揃えていくのは大丈夫だと思っている。心配なのは補助金の問題で、健康づくりのために料理も研究しており、活動資金の援助を行政から受けている。このような補助金はどうなるのか、まだ話し合っていないのでわからないが、行政の方で決まったら対応していかないといけないので、まず集まって話し合う必要性を感じている。
- (11) 税金から援助を受けて勉強させてもらっているので、学んで得た知識を地域におすそ分けしようというのが会の趣旨であり、合併についても協力していきたいと考えている。保健所と連携を図りながらいい方向に進めていきたいと考えており、55プランも合併後の市に引き継がれるべきものと考えている。
- (12) 県社会福祉士会は日本社会福祉士会の鹿児島支部でもあり、合併で直接の影響はない。
- (13) 平成2年に福祉関係の法改正があって、介護保険制度が施行された。介護は住み慣れたところという趣旨で、市町村単位で介護サービスを提供することになり、各地域でこれまでやってきた。要介護者の分布も地域で異なっており、施設サービスが進んでいるところ、在宅サービスが進んでいるところ、それぞれの違いによって、保険料も高いところと安いところが出てきていると思う。それらを一本化する場合、各地域のサービスの財産を有効に使って、できるだけ大勢の人に平等に予算が使えるようにしてほしい。
- (14) 訪問給食を2食にするのはハードルが高いと思うが、他にも市の福祉サービスには他町にも喜ばれるところがあると思う。よくなるどころ、わるくなるどころ、それぞれあると思うが、できるだけいいところに落ち着くように、今後の動向に注目している。
- (15) 看護協会は全国組織であり、合併について全国で勉強が始まっている。一番気になるのは、住民に直接接する保健師と合併の関わり。保健師は保健所に属する者と町村に属する者とに分かれており、保健所に属する者は加治木・指宿・伊集院の保健所が該当する。合併後の保健師の配置については、行政の整理がついてからの話になると思うが、例えば町村に属する保健師の配置は住民何人につき1名と決まっており、今よりも受け持ち人口が増えると大変。そのことは全国でも話題になっている。住民サービスがマイナスにならないよう配慮してほしい。
- (16) 薬剤師会は保健・福祉との関わりが出てくると思う。行政で合併協議がしっかりできてから、組織としての対応を考えていくことになると思う。

- (17) 薬剤師会では毎年薬の相談会を19ヵ所で行っているが、面積が広がったらどうしようかと考えている。
- (18) 一番興味を持っているのが敬老パスのことである。敬老パスについては、高齢者福祉課の方から、どういう形なら合併後に敬老パス・友愛パスをバス事業者として引き受けてもらえるのかという話を伺っている。バス事業者として、現在市から一定の負担金をもらい運行しているが、この負担金の算定基礎となる運賃は180円で1ヶ月13回の乗車、それも3分の1は事業者負担してほしいということで、事業者の負担が大きく、また実績自体もはっきりつかめていない。事業者の負担が非常に大きいので、今回の合併にあたっては是非実績を示していただきたいということも要望したいと考えている。この件については、高齢者福祉課と具体的に協議をしていくが、このことを念頭においていただきたい。
- (19) 県母子寡婦福祉連合会と連携をしながらがんばっているところだが、合併することによって、5町の母子福祉会と一緒に活動することになると、大変責任が重くなる。県母連ともまた5町の方々ともよく話し合わなければいけないと思っている。これからの取り組みになるが、県や市の予算の面も含めて、県母連ともよく折衝をしながらスムーズな統合となるよう話し合っていきたいと思っている。市母子寡婦福祉会は柳町福祉館の3階を借りてすべての活動、事業を行っているが手狭で駐車場もない。現状でもこのような状況であり、合併すればさらに手狭になる。今後は母子家庭に対する支援、相談などをさらに行っていかなければならないし、他の町の方にも便利のよい場所を確保していただきたい。
- (20) 私たちの協議会も各町にあるが、市町村の身体障害者の組織機構をどうするかについてはまだ話し合っていないが、今後考えてみたいと思う。100年の計で鹿児島市が大きくなるように、また、すべての人が幸せに暮らせるような街にしていきたい。
- (21) 合併後の市の施策として、5町に手厚くするのは理解するが、人口割だと市が手薄になるのではないかという考え方もある。その辺の検討をお願いしたい。私はレクリエーション協会の活動も行っており、公民館や福祉館で親子体操等の指導をしているが、市内ではなかなか場所がとれない。郡部はいつも空いている。人口割で考えると、市の方が公共施設の整備が遅れている。合併特例債は、1市5町が同じ生活条件になることを基本に使用してほしい。特に高齢者福祉や児童福祉に力を入れてほしい。
- (22) タクシーの営業区域は運輸局で指定され、その区域で運行している。吉田町、郡山町及び松元町は鹿児島交通圏に入っており営業を行っているが、これに桜島町、喜入町が入ると、タクシーの需要が減少している中で鹿児島市に集中することになる。一昨年の道交法改正により規制緩和がなされ新規加入もあり、供給過剰に拍車をかけるのではないかと危惧している。運輸局の見解等については、現在確認しているところであるが、旧交通圏のままいくのか定かではないが、一つの課題として考えている。今まで吉田町、郡山町及び松元町のタクシーは、紳士協定的なことで現時点は鹿児島市には出てこないということで、市の協会に加入していない。合併により鹿児島市となるが、協会に加入しないということになれば、指導の面で問題が出てくることになり、さらに迷惑をかけることになるのではと憂慮している。友愛タクシー券交付事業は是非継続していただくようお願いしたい。
- (23) 県栄養士会としては、市の単位で組織を作っていなかったのが公共的団体の統合ということについては問題はない。生活者として合併は大変いいことだと思う。特に、乳幼児医療費助成事業やごみの無料化など鹿児島市のよい制度は鹿児島市のものに統合し、逆に心をつなぐ訪問給食事業等を2食にするなど、お互いのよいところだけを取り出して統合していくという基本的な方針に賛成である。
- (24) 現在民生委員は864名いるが、合併したら988名と大勢になる。児童福祉や高齢者福祉事業の中でメリットだけを受け入れて、デメリットを主張するのではなく、お互い公平な形で調整をし、住民を納得させてほしいと思っている。地域での意見交換会に出席したが、少なく寂しい気がした。行政や専門家の方々でいろいろと協議を行って、住民の方々に広報すればいいのではないかと考えている。
- (25) 既存の公共施設がたくさんあると思うが、こういうものをどのように生かしていくのか。これらをあまりお金をかけずに一つひとつ十分に活用していただきたい。鹿児島市の10年後の人口は65歳以上は増え、あとは減少し、高齢化社会が訪れる。大きな財政負担になると思うが、このような施設も利用しながら、高齢化社会に向けて10年後、合併する5町をどう生かしていくかということも考えていただきたい。

- (26) 住民福祉は非常に大事であるが、一つ言えるのは、やはり住民に対してもちゃんと説明をし、甘やかさないということ。新たな事業を行うことで必要がなくなる事業は廃止するなどメリハリつけて行ってほしい。鹿児島市は税金が高いと思うので、できるだけこれは上げないような形で住民サービスもしっかり選別してやってほしいと思う。
- (27) 我が団体に関係する事業としては、検診事業、保健衛生事業、また、学校保健、健康教育というものがある。かつて伊敷村、谷山市との合併をしたことがあり、時代は多少違うが、各種団体としてもスムーズに合併できるのではないかと。ただ、いろんな事業に取り組んでいるので、そういう事業に対する出資金に関する事、団体に加入する際の入会金等が問題になってくると思う。

#### 意見交換会の質疑応答等の要旨

- (Q1) 友愛特別乗車証について、現行制度を見直すとなっているが、どのように見直すのか。
- (A1) この友愛パス制度についても敬老パスの見直しと同じように見直しがされているところである。今の段階ではどうなるかは申し上げられない。
- (Q2) 児童福祉事業において誕生祝金支給事業が廃止されたり、すこやか子育て支援金支給事業が廃止される。また、入学祝品支給事業が合併と同時に廃止されるというのは、少し気になる。
- (A2) これらについては、まだ決まったものではなく、現在、提案中のものだが、これらの廃止をしようと考えている事業については、一部の町だけでやっているという経過がある。したがって、これらの事業については、市でやっているその他の事業でカバーできるということで廃止という考え方を示したところである。
- (Q3) 合併協議の中で気になるのは、誕生祝金支給事業やすこやか子育て支援金支給事業等の廃止。福祉サービスの後退のイメージを与えないか。
- (A3) 児童福祉事業等の中で廃止の提案がなされているのは、殆どが1つの町でやってきた事業である。それぞれの施策の目的については、鹿児島市の他の施策で対応できていると考えている。
- (Q4) 5町の団体等と話し合いをしたいと思うが、説明では平成16年早々に調印をすると聞いた。5町が鹿児島市と本当に合併するかどうかの確認ができないうちに、あまり早く取り組んでも合併しないところがあると困るので、その辺についてご教示いただきたい。
- (A4) 現在、合併協議や市町村建設計画の協議を進めているが、年内に合併協議会での結論を得て、明けて平成16年早々に合併協定書の調印を行いたいと思っている。したがって、合併の準備作業は、合併の調印が終わってから、もう少しいえば、合併議案の議決がなされてから行っていきたいと考えている。その期間というのが、合併議案の議決が2月の辺りから10月いっぱいまでを合併準備作業ということで進めていきたい。市の関係はこういうふうに進めていくが、公共的団体そのものは16年の11月に必ずしも統合しなければならないというものではなく、また私どもが決定するわけでもないのだから、それまでの間にできないものもあると思う。ただ、行政との関わりもあり、関係課と連携して抜かりのないように対応してまいりたい。
- (Q5) 吉田町、松元町及び郡山町では町の委託を受けてバスを運行しているが、これについてどこまで検討されているのか。関係の事業者がいつの時点で協議に加わるのか。また、敬老特別乗車証交付事業についてはどのようにしているのか。
- (A5) 交通関係事業の協議は、企画専門部会と交通専門部会の2つで協議をしている。関係者との協議は、方針案を合併協議会に提案をし決定をされた後に関係の機関と協議することになると思う。敬老パスについては、現在健康福祉局で検討しているので、検討案が固まったなら合併協議会に議案として提案していくことになるが、その提案時期ははっきりしていないところである。

### 意見記入用紙の主な記載事項

- (1) 未来を築くのは青少年であり、青少年を育てる観点から次のようなシステムの見直しを図る必要がある。
  - ・子育て支援の組織
- (2) 少子高齢化の人口推計の中で、高齢者対策は重要な案件になってくると思うので、緑と自然の中にモデル住居地をつくり、過疎化を防ぐようなまちづくりが必要。
- (3) 合併に伴う行政エリアの拡大が、サービス低下にならないように十分配慮してほしい。(福祉、教育等)

## (6) 経済部会関係

### 意見交換会の中で出された意見の要旨

- (1) 5町を合わせて6つの商工会が合併した場合としない場合の市の対応がどうなってくるのか。運営上の財源が、合併しないときにカットされると、財政基盤が非常に危うくなると危惧を抱いている。
- (2) 都市部と周辺の農山村部が一緒になるわけだから、食糧の安全、地産地消ということから考えれば、新しい市ではかなりいい取組みができるのではないかと。
- (3) 森林組合では、鹿児島県を4つの区域に分けて合併を進めている。薩摩半島は、鹿児島と指宿、南薩、日置の4つを合併しようと、9月の研究会発足ということで話を進めている。実現すれば、薩摩半島が1つの組合になる。
- (4) 5町には商工会があり、また商店街とか通り会があると思うが、紹介いただければ統合等について話し合いに行きたいと思う。
- (5) 観光行政については、常日頃、鹿児島市もたいへん力を入れておられて、県全体も観光産業がこれから重要だという認識で積極的なモーションを図っていただいている。1市5町ということで、ニュー鹿児島、人口60万の南九州の中核都市ということであるので、ぜひ自然景観の保護や歴史的・文化的遺産の再整備、見直し等含めて、観光行政で県と一体となった力添えをいただき、そして観光整備をすることによりお客さんが増えることになると思う。観光の重要性を再度認識いただき、力を入れていただきたい。
- (6) 今日の資料で説明していただいた中で、全般的に感じたことは、まず鹿児島の象徴は桜島であり、鹿児島と聞いてまず第一番に思い出すのは桜島であるということ。桜島と鹿児島市が一体になるということは、観光を推進する上では、非常にやりやすくなるのではないかと。何かにつけて、行政側が違うとやりにくい面があったが、一体になることによって売りやすくなるのではないかと。
- (7) 現在、県内には11の商工会議所があり、その他に各町村に多くの商工会がある。それらをどうまとめるか、これが我々の一番の関心事。鹿児島市と谷山市が合併するときも議論されたが、いまだに谷山商工会が残っており、鹿児島商工会議所との合併は決まっていない。商工会は商店街の振興を図る立場にあり、そう簡単にはいかないと思うが、鹿児島市が合併しようとする5つの町の商工会との関係は非常に大事な問題であり、慎重に事を運ばなければいけない。そのためには全国的な流れも研究しながら、日本商工会議所とも連携をとってやっていきたい。そして最終的には、他の商工会議所の手本になるような結論が出ればと考えている。
- (8) 経営者協会は商工会議所と違って地方組織がない。下部組織の能力開発協会などは支部を持っているが、5町については特に問題ない。
- (9) 市内5農協の合併については、平成16年度を目標に取り組んでおり、市町村合併と同様のタイミングになるので、ご指導方よろしく願います。現在は市町村の合併より農協の合併が先行しており、股裂き状態になっているところもある。市内に本店がない農協については、意思疎通をよろしく願いたい。
- (10) 県経済は市に集中しており、周辺町では商店街が衰退している。5町の商店街は、合併に伴い、道路整備等により今以上に衰退するおそれがあるので、その辺を考えておく必要がある。また、都市化が先行して、農産物を中心とした周辺の地場産業が衰退することのないよう配慮すべき。

- (11) 商店街振興組合は、商工会議所が設置されているところだけが加入できる。喜入町、桜島町、吉田町も商工会が残るのであれば、振興組合法により、商店街振興組合に加入できないこととなる。団体の統合については、全振連と協議しながら、そういうところも加入できるよう、全国的に考えていただいて、統合し一緒にやっていく方法を模索していきたい。
- (12) それぞれの町には商工会があり、商工会の統合と市町村合併を同時に進行させるということは考えていない。商工会の統合は、商工会運営の中で広域合併をすることで効率化とか、発展等を目的としたもので、独自に考えている。市町村合併があるから自動的に合併するということまで考えてはいない。5町の立場からも、合併後もそれぞれの町の商工会は存続させたいという意見がある。
- (13) 谷山商工会は、鹿児島商工会議所との合併研究会というものを設けたことが、過去にはある。しかし、商工会議所と商工会の組織の趣旨・目的というものが、定款では似たようなものになっているが、実質施行している中では、商工会の方が地域に密着した地域振興などを重点的に行っており、なかなかなじまない組織同士ではないか。したがって、合併については、時機尚早という意見が出ている。
- (14) 来年3月に新幹線がやってくるが、それに合わせて共通商品券を出したいと思っているが、そのときには、まだ合併になっていないので5町も一緒に取り組むのは間に合わない。その辺の行き違いが無いように、合併の時期については認識を持ちながら取り組みたいと考えている。商工会の中には、商店と工業などいろいろあり、ほとんど通り会に入っていたが、商工会があるところは、通り会への加入も商工会に相談もしながら進めないといけませんが、何かいい方法はないのか検討していきたい。
- (15) 谷山市時代の協会が、鹿児島市との合併後も残っているが、現在は会員80人ほどの小さな団体である。慈眼寺公園でソーメン流し事業をしているが、そんなに大きな事業でもないので、合併に賛成とか反対とか言える団体でもない。鹿児島市の観光スポットの1つとして活動を続けており、このソーメン流しを市の観光協会で引き取ってくれるのであれば統合について考えてもいいと思うが、最終的には会員に諮って決めなければならない。
- (16) 鹿児島市は眼前に海や桜島を持ちながら、観光地づくりとしてはまだまだ遅れていると思う。合併により桜島町、喜入町が入るので、錦江湾一体、桜島を取り込んだ新たな観光戦略を考えなければいけないと思う。そのために、クルーズやヨットハーバーなどウォーターフロントを活用したまちづくりを是非行っていただきたい。松元町や郡山町は非常に緑が多いので、新たな開発をせずに、そういうものを生かした衛星都市というか、鹿児島市の方々が回りに住むようなまちづくり、あるいは週末には鹿児島市の人たちが松元町や郡山町に緑を求めて、あるいはスポーツ、レジャー、農業でもよいが、そういう衛星都市構想みたいなまちづくりを是非進めていただきたい。
- (17) TMOについては、商工会議所で取り組んでいるが、鹿児島の場合は西駅・中央・上町の3地区で270haあり、九州では例のない広い地域を対象とする構想になっており、なかなかまとまらず苦労している。この前、西駅から本港区まで1時間半かけて歩いてみたが、いろいろな問題点が見えてきたので、箇条書きにして市長のところを持参しようと考えている。例えば、新幹線が開業したら、西駅も名前が変わるわけだが、駅から電車通りの沿線に花壇をずっと整備したらどうか。

#### 意見交換会の質疑応答等の要旨

該当なし

#### 意見記入用紙の主な記載事項

該当なし

## (7) 建設部会関係

### 意見交換会の中で出された意見の要旨

- (1) 5町と市の接点は、やはり道路である。現在、国道10号・3号・225号や南九州西回り道路があるが、これらの連携を図ることが必要。さらに南北・東西の幹線道路について、早期実現を望む。
- (2) 町名・字名については、今でさえ住居表示によって市内の町名が変わり、わかりにくくなっている。新たに5町の町名について、旧町名がなくなると、どこにあるのかわからなくなる。できれば、吉田本城とか喜入中名というふうに残してもらった方がいいと思う。その上で、一定の年数が経って落ち着いたら、町名が長いから改めようということにすれば、混乱もないのではないか。
- (3) 合併によって鹿児島市への一極集中が進み、道路や交通機関の朝夕の混雑が予想されるので、道路・交通体系の整備をしっかりとってほしい。
- (4) 地名は歴史に関わるものであり、大事にすべきで、勝手に変えないで歴史ある地名は残してほしい。
- (5) 建築士会は資格者団体であり、県下2,700人の会員で、13の支部に分かれており、鹿児島地区が本部になっている。1市5町の合併による影響については、松元町・郡山町が日置支部、喜入町が指宿支部であり、行政区域が変わると支部活動がどうなるかという問題がある。もともと昭和26年に建築士法ができてから、これまで50年間ずっとこの体制でやってきたので、これから新たに検討しなければならない。県下には他の合併協議会もあるので、それらが終わった段階で、県合同庁舎の管轄エリアがどうなるかも見極めながら、支部の再編ということが起こってくるのではないかと思う。
- (6) 都市計画の線引きに関心を持っており、町内会長を通じたりしてお願いすることがあるかもしれないのでよろしく願う。
- (7) 今の時代の合併は、市町村のあり方が実態に合わなくなっているといえれば合わなくなっているから合併したらいいかという意見がある。もう一方で、絶対地域の個性は残してほしいという願いがある。東京はかつての古い地名などがなくなっていった。合併していい地名をなくしていく。由緒あるところがなくなってしまふ。名古屋は尾張徳川時代の名前がたくさん残っている。これは地元の人たちが抵抗した結果だと思う。地域に住んでいた人たちの文化がわかるような名前が残っており、そういう意味では町名を決めるときに古い文化なり伝統なりを残していただきたい。それが合併後の鹿児島市の個性豊かな地域となり、伝統ある地域が集まって鹿児島市を作り上げていくことになるので残してほしいと思う。
- (8) 町名については、非常に大きい問題であり、桜島という地名が消えるのではないかということで町民の意思を確認するという動きがあると聞いている。表示案が3案あるが、私は基本的には2の桜島大字という形で残してもいいのではないかと思っている。他の町はそれにならうのではなく、やはり住民の意思を確認して、一律でなく、柔軟に対応すればいいのではないかと思う。特に桜島というのは鹿児島にとって観光資源、地名が資源の一つだと思っている。住民が桜島にこだわるのであれば残してほしいのではないかと聞く。
- (9) 私たちの団体は、土木事務所を単位に支部がある。鹿児島市の支部が脇田川から北の鹿児島市と吉田町、桜島町までの範囲だが、5町との合併となると、現在、郡山町、松元町、喜入町は、それぞれ日置支部と指宿支部に入っている。公共事業が減っていく中で、各支部の統廃合というのを考えていかなくてはならない。果たしてうまくいくのか心配ではあるが、合併協議の進行に合わせて協議をしていかなくてはならないと考えている。
- (10) 鹿児島市は眼前に海や桜島を持ちながら、観光地づくりとしてはまだまだ遅れていると思う。合併により桜島町、喜入町が入るので、錦江湾一体、桜島を取り込んだ新たな観光戦略を考えなければいけないと思う。そのために、クルーズやヨットハーバーなどウォーターフロントを活用したまちづくりを是非行っていただきたい。松元町や郡山町は非常に緑が多いので、新たな開発をせずに、そういうものを生かした衛星都市というか、鹿児島市の方々が回りに住むようなまちづくり、あるいは週末には鹿児島市の人が松元町や郡山町に緑を求めて、あるいはスポーツ、レジャー、農業でもよいが、そういう衛星都市構想みたいなまちづくりを是非進めていただきたい。

- (11) 安定型処分場が合併する5町に点在しているので、我々業界にとっても市街化調整区域の線引きが一番気になることである。合併後、市街化調整区域になった場合には建築基準法の制約を受けると思うが、そういう制約を受けることになると5町の住民にとって多大な負担が生じてくるのではないだろうか。業に対して何か出てくるのではないかという話が出ている。そういうことがないような措置をとっていただいたり、あるいは猶予期間を設けていただければと思う。
- (12) TMOについては、商工会議所で取り組んでいるが、鹿児島の場合は西駅・中央・上町の3地区で270haあり、九州では例のない広い地域を対象とする構想になっており、なかなかまとまらず苦労している。この前、西駅から本港区まで1時間半かけて歩いてみたが、いろいろな問題点が見えてきたので、箇条書きにして市長のところを持参しようと考えている。例えば、新幹線が開業したら、西駅も名前が変わるわけだが、駅から電車通りの沿線に花壇をずっと整備したらどうか。
- (13) 子供がふるさとを自慢できるのは、地域の独自性や歴史性があるからで、地区としての特色を打ち出せるような施策を展開してもらいたい。地名は歴史や伝統のあるものであり、何らかの形で生かしてほしい。

#### 意見交換会の質疑応答等の要旨

- (Q1) マスコミを通じて、町名・字名の取扱いで苦労されていることを聞き及んでいるが、1つの事例として姫路市の例を紹介したい。姫路市は政令市ではないが区制を布いており、住所の表示は兵庫県姫路市 区 町となる。合併特例法には区の規定はないか。面積が2倍になれば、どこにどの町があるか5町の町民も市民もとまどい大きいと思う。
- (A1) 区制については、合併特例法には規定がない。本来は、地方自治法に基づくべきものとする。区制となれば、組織機構との関わりも出てくるが、これまでの協議では、5町の役場は合併後、支所とすることが確認されている。

#### 意見記入用紙の主な記載事項

- (1) 合併後の町名には地名を残す。旧地名には歴史(災害を含む)が残っている。地元にかまかせるのではなく、学識経験者の意見を聞く会を開く。
- (2) 地域の特性や歴史性を大切にす方向で、地名は残してほしい。周辺地域の衰退にならないようにしたい。
- (3) 少子高齢化の人口推計の中で、高齢者対策は重要な案件になってくると思うので、緑と自然の中にモデル住居地をつくり、過疎化を防ぐようなまちづくりが必要。

### (8) 消防部会関係

#### 意見交換会の中で出された意見の要旨

- (1) 市の自衛防火協会は、消防局の中に3署あるが、それぞれの消防署の管轄に入っている。自分の職場は自分で守るという趣旨。会員は約500団体であり、会社・学校・病院・百貨店・スーパーなどが入って、消火訓練やいろいろやっている。5町では、吉田町・松元町・郡山町に各地区の防火管理協会があるので、統合について十分話し合っ、できるだけ多くの会員で一本化した訓練・指導ができるよう、今まで同様防火対策に取り組んでいきたい。

#### 意見交換会の質疑応答等の要旨

該当なし

#### 意見記入用紙の主な記載事項

該当なし

## (9) 教育部会関係

### 意見交換会の中で出された意見の要旨

- (1) 鹿児島市では、あいご会は昭和36年に発足している。それから10年後に子ども会というのが各市町村にできたのではないかと思う。鹿児島市のあいご会は市民全員が会員であり、そのことは市民憲章にもうたわれており、各世帯に1年に30円ご負担いただき、事務局を運営している。5町の子ども会は、自治団体というより任意団体というもので、子どもがいる家庭だけが会員になり、その負担と行政からの補助金で運営をしているところである。十分に話し合い、理解していただいて、あいご会の会員となり、協力していただきたいと考えている。早目に取り組んでいかなければならないと考えている。
- (2) レクリエーション協会は設立10年になる。以前は全国組織はあったが、鹿児島には組織がなかった。5町のうち3町にはまだ組織がない。市町村合併が行われれば、協会も5町と一緒に設立した方が効率的だと思う。
- (3) 教育委員会から委嘱されている市の社会体育指導員は現在136名おり、5町にはそれぞれ10～13名いる。文部科学省の基準では人口4千人に1人の指導員とされているが、桜島では全体で10名であり、人口4百人に1人の割合になっている。吉田の場合も本来は2人の指導員で足りることになり、合併に伴って減員することになるが、社会体育の上では問題があるので、考慮してほしい。
- (4) 芸術文化協会では、まだ合併について具体的な協議は進んでいない。組織の現状は、市の芸術文化協会は県全体の組織の加盟が多く、殆ど県組織とだぶっている。5町にも殆ど文化団体があるが、運営の実情がかなり異なっている。市の芸術文化協会の加盟団体は殆どが県組織の本部であり、プロ級の活動を行っている。これに対して町村の組織はそういう性格ではなく、地域の融和を図るため愛好者が集まっているものであり、逆に市の協会ではできない地域の文化祭などをやっている。基本的にそのような違いがあるが、まず市の協会から5町の団体に、合併について話し合うという呼びかけをやってみたらということで協議中であり、そういう方向に進んでいくと思う。市教委の文化課も関心を持っているということで、相談しながら進めていきたい。
- (5) 市の私立幼稚園協会では、既に5町を入れ込んで研修をやっているが、行政からの補助金等がそれぞれ異なるので、合併して一本化されればありがたいと思う。市内の幼稚園は殆どが私立であり、おかげで市の財政が助かっている。仮に公立の幼稚園を設置すると、園児1人当たり60万円の経費が必要となるが、私立なら1万4千円の公費負担で済む。市の場合は55万都市に2園しか公立がないが、5町は殆ど公立であり、その財政負担はどうなるのかと考えている。市の場合、公立2園だけでは研修ができないので、私立幼稚園協会研修を引き受けているが、財源はついて来ない。合併すると5町の園の面倒もみないとはいけませんが、どこまで私共だけでやっていくのか。そのことを考えてほしい。
- (6) 5町と合併すると、市は都市機能中心のまちとして認識されるが、5町には里山もあり田畑もある。都市機能プラス農村機能のあるまちとして、また桜島の一体化によって、子供達がふるさとを見る目が変わってくると思う。そういう変化に対応して、これまでの街の中での交流体験から、自然体験・社会体験等の活動がもっと広がるという意味で、今回の合併をプラスの機会と捉えたい。したがって、周辺にもっといい文化施設や体験施設を整備して、一極集中にならないように、もっと外に広がっていくような施策を考えるべき。
- (7) 都市化によって連帯感が欠如することのないよう、コミュニティづくりによって連帯感を高めるようにしてほしい。そう意味で、連帯感の強い5町を参考にして、あいご会とか、青少年育成を支えていくような施策も計画に盛り込んでほしい。
- (8) 教育行政はきめ細かな対応が必要であり、合併後どう維持していくかが課題。5町の教育委員や教育主事はどうなるのかわからないが、これまで同様きめ細かな対応ができる体制を整備していくべき。
- (9) 地域の特色を生かした教育をどのように進めるか。例えば松元町は卓球の町として全国的に有名であり、このような地域の特色が生かされるような教育システムをつくっていかなければならない。
- (10) 5町には独立した図書館はないが、合併後は市立図書館まで来るか。分館とか移動図書館などの活用が必要になると思う。
- (11) 高校入試は学区制との関連があるが、受験生にとって選択肢が狭まることのないようにしてほしい。基本的には県が決めることだが、市としても県に要請してほしい。

- (12) 学校薬剤師については、それぞれの学校で生活衛生の指導を行っており、市内の97校では、1校につき1人ずつ配置されている。一方、吉田町では1人の薬剤師が6～8校を受け持っており、薬剤師が足りない状況。今までは協力ができなかったが、合併すれば協力できるようになる。市からの報酬は年額15万円だが、小さい町村では2～3万円の報酬で、苦しい運営を強いられていた。合併して市と同額になると喜ばしい。
- (13) 合併後、小学校が20校、中学校6校が増えるが、現在行っている行事に参加するための交通の問題、要するに開始時間を遅らせないといけない、また閉会の時間は早めないといけないということが出てくるのではないかと思う。5町には市内と違い地域と密着したPTAの姿というのがあると思うので、鹿児島市内の保護者にみせてもらえるのではという期待感もある。しかし行事の精選ということがPTAのいろいろな会合の中で出てきている。そうしたときに公民館講座やあいご会の事業とかそういう社会教育団体との事業の調整の機関をこの合併の機会にまとめ、その中で家庭教育や週5日制の問題などを各団体と話し合いができるようになればいいなどと思っている。
- (14) 公共施設は、できるだけ統廃合していただきたい。そうすれば、規模も大きくなり、効率的な運営もできる。できるだけ、学校をはじめ諸施設は、統廃合していただきたい。
- (15) 毎年桜島でサッカー大会やウォーキングなど桜島町と一緒にやっているが、桜島町はこじんまりとした行政単位なので、小回りがきく。開会式には町長が来て、挨拶していただけるし、いろんなところで便宜を図っていただく。また、景品なども出していただいている。また、喜入町が市域になれば、指宿枕崎線のかなりの部分が鹿児島市域に入ることになる。駅舎の問題、線路の問題、これも行政単位が小さければ小回りが聞くとこがある。これらのことについて、大鹿児島市になったときにも同様に小回りがきくのか心配がある。役場は支所になるということだが、支所にどういう権限を持たせるかということは、今後の話し合いになると思うが、地域でも小回りがきき、地域に密着したものとなるよう考えていただきたい。
- (16) 我が団体に関する事業としては、検診事業、保健衛生事業、また、学校保健、健康教育というものがある。かつて伊敷村、谷山市との合併をしたことがあり、時代は多少違うが、各種団体としてもスムーズに合併できるのではないか。ただ、いろんな事業に取り組んでいるので、そういう事業に対する出資金に関すること、団体に加入する際の入会金等が問題になってくると思う。

#### 意見交換会の質疑応答等の要旨

該当なし

#### 意見記入用紙の主な記載事項

- (1) 1市5町の合併によって、都市機能中心の鹿児島市に、農村や桜島、里山など豊かな自然が入り、人々の「ふるさと意識」が変わると思われる。また、生活圏の拡大、人々の体験・活動の広がりが予想される。「行財政改革」のみに注目されているが、行政側から「市民の意識改革」を働きかけるとともに、「新しいまちへのビジョン」を「子どもたちの夢」を育むものにしたいと願う。
- (2) 未来を築くのは青少年であり、青少年を育てる観点から次のようなシステムの見直しを図る必要がある。
- ・地域の連帯感を高める組織（あいご会・子ども会の育成・支援組織）
  - ・一極集中の施政にならないよう「拡散」「交流」を考えた教育施設・文化施設づくり
- (3) 合併に伴う行政エリアの拡大が、サービス低下にならないように十分配慮してほしい。（福祉、教育等）

## (10)交通部会関係

### 意見交換会の中で出された意見の要旨

- (1) 市営バスは赤字で市電は黒字だが、そういうバランスも考慮しながら、5町への配慮も踏まえて、市電の延伸を将来的に検討すべき。
- (2) 合併により交通量の増加が懸念される。いろいろ考えると、せっかく鹿児島市に少な目の緑が近隣の町村に豊かにあり、それが鹿児島市という一つのものになるのだから、それをうまく生かした全体的なものをこの際作ってほしい。一つは、パークアンドライド方式で、5町との境界部分にはまだ土地があり、今のうちに大きな駐車場を作り、そこまで車で来て、あとはピストン輸送で市内に入ってくる。地球温暖化を防ぐ意味でも、例えば、松元町は電車があるが、郡山町とか吉田町などは鉄道がないので、どこか一ヶ所だけでも実施してはと思う。また、熊本市でも市電の見直しを行っているが、市電を延伸することによって、10年後少しは暮らしやすい、いい環境になるのではないかと今考えておかなければいけないと思うので、合併を機に考えてほしいと思う。

### 意見交換会の質疑応答等の要旨

- (Q1) 吉田町、松元町及び郡山町では町の委託を受けてバスを運行しているが、これについてどこまで検討されているのか。関係の事業者がいつの時点で協議に加わるのか。また、敬老特別乗車証交付事業についてはどのようなになっているのか。
- (A1) 交通関係事業の協議は、企画専門部会と交通専門部会の2つで協議をしている。関係者との協議は、方針案を合併協議会に提案をし決定をされた後に関係の機関と協議することになると思う。敬老パスについては、現在健康福祉局で検討しているので、検討案が固まったなら合併協議会に議案として提案していくことになるが、その提案時期ははっきりしていないところである。

### 意見記入用紙の主な記載事項

- (1) 交通体系の将来を見越した思い切った施策  
循環型社会・環境配慮型交通網の計画、パークアンドライド、電車の延伸、環境定期

## (11)水道部会関係

### 意見交換会の中で出された意見の要旨

- (1) 水道事業については、専門的な工事を施工するに当たっているいろいろな要望が出てくると思うが、専門的なことなので水道局とも相談してお願いしていきたいと思う。

### 意見交換会の質疑応答等の要旨

該当なし

### 意見記入用紙の主な記載事項

該当なし

**(12) 病院部会関係**

意見交換会の中で出された意見の要旨

該当なし

意見交換会の質疑応答等の要旨

該当なし

意見記入用紙の主な記載事項

該当なし

**(13) 議会事務局部会関係**

意見交換会の中で出された意見の要旨

該当なし

意見交換会の質疑応答等の要旨

該当なし

意見記入用紙の主な記載事項

該当なし